

経済・金融 フラッシュ

12月日銀決定会合：

長期金利上昇の影響注視、包括緩和の効果はでている

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 政策金利据え置き、基金も増額なし。景気判断据え置き

日銀は 20-21 日に金融政策決定会合を開き、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を 0-0.1%程度に据え置き(全員一致)、総額35兆円の基金創設による各種金融資産買い入れにも変更はなかった。

現状の景気判断については、「緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感が見られる」、先行きについても「景気改善テンポの鈍化した状況がしばらく続いた後、世界経済の成長率が、新興国・資源国に牽引される形で再び高まっていくと考えられることなどから、緩やかな回復経路に復していくとみられる」と先月と同様の見解を示した。

リスク要因については新興国・資源国経済の上振れを指摘した。下振れについては「米欧経済の先行きを巡って、なお不確実性の強い状況が続くもとで、景気の下振れリスクにも注意が必要」と11月には指摘していなかった欧州を入れてきている。

今回決定会合については、政策の変更なしがコンセンサスだった。足元で米国経済に対する楽観論が高まっており、それが株高、ドル高・円安、長期金利上昇につながっている。この状況であれば日銀の金融政策は様子見だ。

しかし、年明け後、米国の雇用統計を中心に主要統計が楽観論を裏付ける内容とならず、改善のペースの遅さに市場が失望し株安・ドル安円高という流れになれば、年度末にかけて日銀が動くというシナリオの可能性が高まる。

日銀 景気判断・見通し

	現状
2010年12月	(据え置き)
2010年11月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きに一服感がみられる
2010年10月(展望)	(据え置き)
2010年10月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きが弱まっている
2010年9月	(据え置き)
2010年8月臨時	(据え置き)
2010年8月	(据え置き)
2010年7月	(据え置き)
2010年6月	(据え置き)
2010年5月	景気は緩やかに回復しつつある
2010年4月	景気は持ち直しを続けている
2010年3月	(据え置き)
2010年2月	(据え置き)
2010年1月	(据え置き)
2009年12月	(据え置き)
2009年11月	景気は持ち直している

2. 総裁の会見：長期金利上昇の影響注視、包括緩和の効果はでている

記者会見で総裁がコメントした内容。

(最近の金利上昇について：金利の推移や実体経済への影響を注意深く点検していく)

金利の推移や実体経済への影響を注意深く点検していく。日本も含め、世界的に長期金利が上昇している背景については、米経済の先行きに対する悲観論や米金融緩和期待の後退で米長期金利が上昇するなか、各国の長期金利がつれて上昇したものと理解している。企業や家計の資金調達コストや、金融機関の収益状況を通じて影響する側面がある。

(包括緩和の効果について：金融環境を緩和方向に進める効果を発揮している)

金利を押し下げる方向に作用している。REIT買い入れを発表した時点から、先取的にREIT価格の上昇がみられる。日銀の買い入れが一つの呼び水になって市場の厚みが増し、価格が上昇していく姿を期待している。株価や不動産投資信託(REIT)の価格上昇などリスクプレミアムの縮小にも寄与している。全体として金融環境を緩和方向に進める効果を発揮している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。